

## 22. ザ・シャード



ザ・シャードは、ピラミッドを垂直に引き伸ばしたような形状をしており、互いに接触しない8つの面からなる。この外観は、カナレットがロンドンの風景画に描いた帆船のマストや教会の尖塔をイメージしたものである。外壁は英語で「破片」を意味する“Shard”の名称通り、角度を付けてガラスが取り付けられており、透明度の高い低鉄ガラスが用いられていることとあいまって、天候で変化する空の様子を刻々と映し出す。

建築設計はポンピドゥー・センターや関西国際空港旅客ターミナルビルで知られるイタリア人建築家レンゾ・ピアノ。

実際にロンドン市内を移動していると至る所から見る事ができ、存在感の高さがうかがえた。また、彼の作品にみられるのが、建物や光の移ろいがあるが、この建物も、見る角度や時間や角度により建物の表情が変わる点は、素晴らしいと思った。

小見 友秀